



## MASQUERADER

表裏の境目を曖昧にすると、  
世界は二次元から三次元へと拡張する。  
印刷は紙を違う物体へ、実在と異なる質感と奥行きへと飛翔させた。  
表裏に異なる表情を浮かべ、奥底に情感のレイヤーをうごめかせる  
5人のMASQUERADER、見参。

## GOO CHOKI PAR

Printing Director: 岩山中

## ABOUT TRIAL

試みたトライアル

※「ワックスプラス」の詳細は  
P.17をご覧ください

支持体としての紙を、半透明にする加工で変化させるトライアル。  
表裏の境界は曖昧になり、両面に施された印刷が奥行きと質感を創出する。

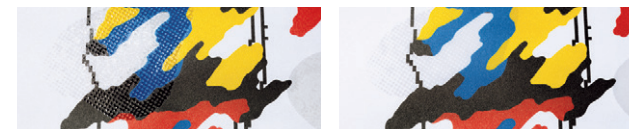
### TRIAL 1 | 特殊表現「ワックスプラス」の探求

本来、ワックスプラス加工を用いる場合はオモテ面にオフセット印刷を、ウラ面にワックスプラス加工を行い、オモテ面からウラ面が透けて見えるように使用する。今回のテストではワックスプラス液の強度の調整や、刷り面を変更することで効果がどう変化するかを検証した。その結果、オフセット印刷の上からワックスプラス加工を施した表現が物質感がある、ということで作品に採用された。



オフセット印刷+ワックスプラス (オモテ面)

オフセット印刷+ワックスプラス (ウラ面)



インクジェット+ワックスプラス (オモテ面)

インクジェット+ワックスプラス (ウラ面)

### TRIAL 2 | 用紙の違いによる効果の検証

ワックスプラスの効果は用紙によっても変化する。紙質、配合成分、繊維の状況、厚みなどにより、ワックスプラス液の浸潤の度合いが異なるからと考えられる。最終作品のイメージを想定しながら、用紙やモチーフとの相性を探った。その結果、透け感や物質感、レイヤー感が表現された用紙、OKブリザードが、作品に採用された。



OKブリザード

ビオトープGA  
(コットンホワイト)

アラベール  
(ウルトラホワイト)



コンケラーレイド  
(ブリリアントホワイト)

ハーフエア (ヘンプ)

### TRIAL 3 | ワックスプラス加工後の加飾

ワックスプラス加工後にさらに加飾することで、より複雑でユニークな表現へのグレードアップを図るため、スクリーン印刷と箔押しやエンボス加工などを検証した。その結果、ワックス面にエンボス加工を施すと、蠟引きの紙に圧を加えた痕跡のような不思議な物質感が生まれることがわかった。白く浮き上がる表情がユニークということで、作品には「エンボス加工」が採用された。



高濃度マットブラック

黒+クリアニス厚盛

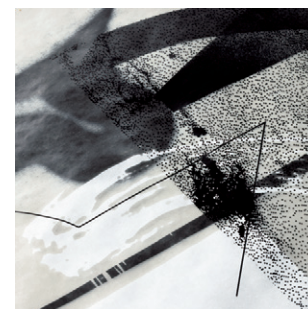
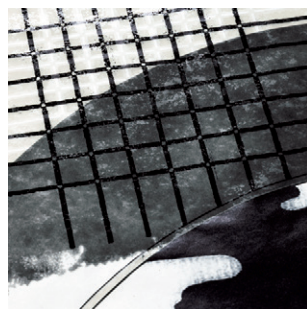
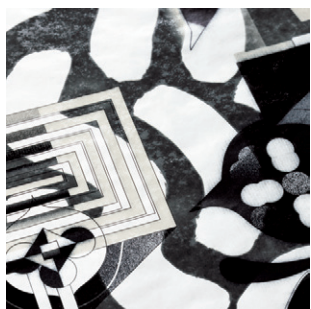
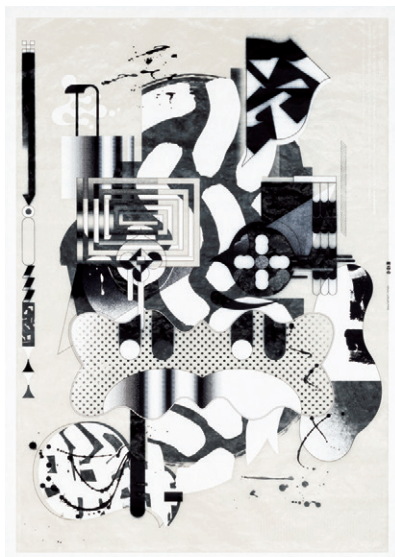
金 (フォイラー)



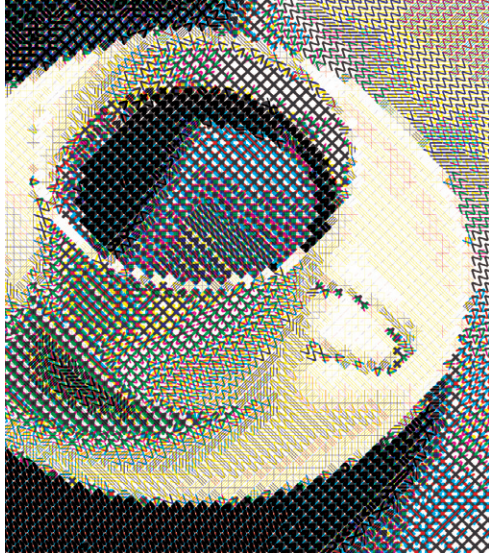
銀 (箔押し)

金 (箔押し)

エンボス



オモテ面：オフセット印刷2色（高濃度スミ→特スミ）→ワックスプラス加工→エンボス加工  
 ウラ面：オフセット印刷2色（高濃度スミ→特スミ）  
 ※インキ・刷り順は5点共通 ※用紙はすべてOKブリザード



**スクリーンメーカー**

偽造防止の観点から生まれた表現技術です。通常、網点は絵柄の濃度に応じて、大小に自動的に変換されますが、この技術では指定したtiffデータを印刷する絵柄の濃度に振り分けていくことで版を構成します。最大255段階まで階調が生成でき、階調幅や整列する角度は自由に設定することができます。“網点”1つひとつの形状と、それが連携して生み出されるビジュアル。絵柄の中にさまざまな絵柄が浮遊しているような、多重構造を創出します。

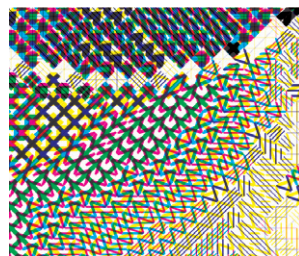
「網点」そのものが1つの絵柄  
想定外の表現と出会える生成技術



指定した階調幅の各枠内で、自由な画像（網点）を設定できます



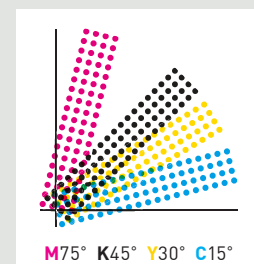
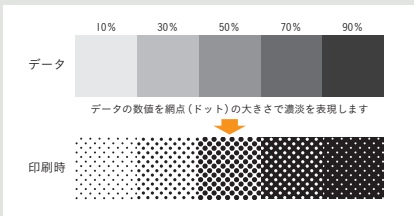
絵柄の濃度に応じて、用意した画像（網点）が振り分けられます



指定した画像（網点）が重なり合って、思わぬ図像も生まれます

**色調と濃淡をつくる「網点」**

カラーのオフセット印刷では、「網点」と呼ばれるドットの大小で構成された各色ごとの版で、インキを紙に刷り重ね、濃淡や色調を再現します。ドットの大小は「スクリーン」によって配分され、スクリーンには網点が規則的に並ぶAMスクリーンと、点の粗密によって濃淡を表すFMスクリーンがあります。AMスクリーンの場合、目の細かさは1インチの幅に並ぶ網点の数（線数）で表示します。



AMスクリーンでは、網点を配置する角度（網角）を変えて、版を重ねた時に生じるモアレ（干渉縞）の発生を防ぎます。

**PRINTING TECHNOLOGY**

表現技術のご紹介

グラフィックトライアルでは、オフセット印刷に加えてインクジェットやスクリーン印刷など、多様な方法を取り入れ、さらに加工技術や印刷以外のメディア表現も取り込んで、印刷表現を追求しています。



**ワックスプラス**

紙の繊維に、特殊なワックスプラス液を含ませることで透け感を生じさせる加工法で、紙を部分的に半透明にします。フィルムを使わずに、紙を透かして宛名を見せる窓封筒の開発から生まれた技法で、蠟引きと異なり、透かしたい部分を指定できるのが特長です。紙のウラ面に絵柄を印刷、オモテ面にワックスプラス加工を施すと絵柄が透けて見えるなど、1枚の紙の表裏で、紙地、インキ、透明部分の3点を活かした奥行き感のある表現が可能です。

紙そのものを変化させる特殊加工  
透過によって、2次元から3次元へ



ワックスプラス推奨紙は、透明度が高く、繊細なじみ表現も可能  
用紙：HTクラフト紙（オリジナル紙）



ワックスプラス液の含浸が均一だと、しっとり平滑でマットな風合いに  
用紙：アラパール（ウルトラホワイト）



ワックスプラス液が含浸しきらず紙の表面に残ると、グロス感のある表情に  
用紙：羊皮紙（雪）

デザインデータをもとに特殊な型を作成し、紙の指定部分のみを半透明にします。透け感は紙質や紙厚によって変わります。一般的には紙が薄いほど透け感が高くなりますが、紙質によって効果は変わります。トレーシングペーパーのような平滑でしっとりした風合いや、ムラのある艶やかな表情など、幅広い透明表現が可能です。

**ペーパーホチキス製本**

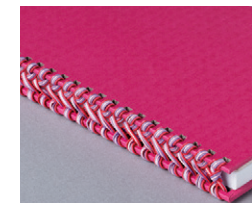
こちらも注目!

日本の伝統工芸で用いられる「水引」で綴じる、安全・安心・環境配慮の製本技法

中綴じ製本の留め具に水引を利用した特殊製本技法です。金属製の針金の代わりに、紐状の紙で作られた水引を用いているため分別廃棄の必要がありません。水引は細長くカットした紙をこよりにして水糊で固めたもので、強度も充分備えています。色も、赤・白・黄・黄緑・深緑・紫・桃・蛍光色と鮮やか。水引本来の飾り紐の技術を応用した手編み加工も魅力です。



留め具それぞれに、異なる色の紐を使用することも可能



水引を複数本通して、編み上げるように綴じるのも魅力